

A・E・ハウスマン

2 ブリードンの丘

(『シュロップシアの若者』21番)

ブリードンの夏は
教会の鐘が澄み切った空に鳴り渡る
二つの村に鳴り響く
こちらでも むこうでも 高い尖塔から
幸せを告げる鐘の音が鳴り響く 5

日曜の朝 ブリードンの丘で
彼女とぼくは横になり
色鮮やかな風景を眺め
ヒバリが天高く僕らの周りを飛ぶ
その鳴き声を聞いたものだ 10

遠いむこうの^{たにあい}谷間から
教会の鐘が 彼女においでと誘っていた
「善良な村人たちよ いらっしゃい
教会にいらして お祈りを」
でも ぼくの恋人はここを離れようとしなかった 15

ぼくは教会の鐘にむかって 応えたものだ
揺れるタイムの草むらから
「ぼくらの結婚式にもよろしく
鐘の音が聞こえたら
遅れないで教会に行きますから」 20

でも クリスマスに大雪が
ブリードンの丘をおおった時に
ぼくの恋人は朝早く起き上がり
こっそりと抜け出して
独りで教会に出かけていった 25

たった一つだけ鐘が鳴らされて

新郎の姿はなかった
彼女は教会にむかい
会葬者が^{あと}後に続いた
恋人は ぼくを待ってはくれなかった 30

教会の鐘がブリードンの丘に鳴り渡る
今日も 教会の尖塔から鳴り響く
「善良な村人たちよ いらっしゃい」
ああ うるさい鐘よ 静かにしてくれ
わかったよ いずれ行くから 35

(山中光義訳)